

令和 7 年度
12 月校長講話

令和 7 年、振り返ってみれば今年もさまざまな出来事がありました。未だやまない世界の紛争、戦後 80 年となった日本では、道路の陥没事故により発覚した加速するインフラの老朽化、コメ不足、クマ対策と、自分自身の社会とのかかわり方や、小さな一個人ができることは何であったかを、今振り返ります。あと数日で 1 年の終わりとなる今日、私の話を持って、皆さんにもこの 1 年を振り返ってほしいな と思います。

先日、生成 AI に関わり職員研修を行いました。10 年ひと昔どころか、今の情報化社会では明日にも時代が大きく変化していく中で、皆さんにもすでにチャット GPT などの生成 AI が当たり前として存在する時代になりました。高校生にとったアンケートでは「悩んだ時にだれに相談するか」という問いの回答で、1 位家族、2 位友人・と続いて、5 位に「生成 AI」がランクインしているという現状に、少しびっくりしながらも時代の変化を感じます。その研修のなかで講師の先生が伝えたかったこと、これは私も同感するところでしたが、返して欲しい返答が AI には期待でき、答えを欲しい時にいつでも手軽に検索ができる。しかし、活用することとは、その検索にとどまることなく、「その答えを使ってどう考えていくか」これが最も重要であるということでした。AI は、ことばを記号として捉えます。そしてこの AI を活用していくには、うその情報を見極める能力や、使いこなせる能力のために「勉強し続けること」が必要であるということも、今さかんに言われるようになっているところです。私たちは生成 AI の発展により、逆に人間本来の良さや人間にしかできない営みの素晴らしさを感じるようにもなりました。あらためて感じることは、人間の強みは「協働できること」、そして経験値や物と触れ合う学びができることですね。10 月に、平田オリザさんの講演会を実施しました。私はこの 1 年で 3 回、平田先生の講演を拝聴しましたが、先生が著書で述べられること、また各所で一貫してお話されることをあらためて皆さんとも共有したいと思います。平田先生は大学入試改革にも大きくかかわってこられての、感じられることも含め、このように言われます。

大学入試は大きく変換の時にきており、すでに「学んだ力」つまり「地頭」を問う入試から、「学んでいく力」を問う入試になっています。これに大きくかわるのが、今後一番大切になる、社会学でいうところの、「身体的文化資本」です。わかりやすく言えば、その人の身体に身につけているもの、別の言い方では「非認知スキル」「非認知能力」です。点数で測れない、センス、マナー、コミュニケーション能力、美的感覚、偏見の有無。こういった、文化的資本の「直感的」といわれる感性を育てるには、「**良いものに触れることでしか育たない**」ということ、そして好奇心を持つということも重要で、この能力は 20 歳までに培われるといわれるところです。身体的文化資本の格差はなかなか発見されないのですが、都市部と地方では差があることは事実です。コンサートや美術館に行く習慣、しかしそのホールや美術館が近いなければ足を運ぶ経験もない。家に本がたくさんあり親が本をよんでいれば子供も自然と親が読んでいる本を

読んでみたい など読書の習慣ができる。こういった習慣がないと一生文化芸術とも無縁のままとなるでしょう。地方にこそ、劇場やコンサートホール、文化芸術の機会に触れる公的な場や催しの誘致をしっかりと考えるべきでしょう。ハイレベルな文化資本を身に付ければ、将来、自分でしっかりと稼ぐことができる。子どもたちに今身に付けるべき、非認知能力の開拓、そして、これからどんどん変わる大学入試改革に向けて必要となるのは身体的文化資本です」というお話です。私たち地方に住む人間は、すでに都会にすむ人たちと文化的資本の格差がついていることもショックですし、それが原因で全国相手に戦う大学受検の合格率に格差ができていく などということは考えたくないところです。

講演会の後に平田先生に質問させていただきました。先生が学長を務める大学の入試には、どんな勉強をしていけばよいのでしょうか？という私の愚問に対し、「良く聞かれる質問ですが、本校の入試では、「勉強してきたか」を問う問題は一切だしません。これまでの経験値がなければ答えられない、そういう難問と言われるものが出ます。」とのことでした。徹底して、学んだ力ではなく、経験した力をどう活用できるか 学んでいく力を問いたい というものでした。「どのくらい、本を読んできたか」も、すぐわかる とおっしゃっていました。読書の必要性を突き付けられた瞬間でした。先ほどの AI の話にも通じることは、実際の経験から、触れるという学び、体験を加速する 必要性です。皆さんには、地方に住んでいても、たくさんの経験を積んで、さらに「知りたい」「学びたい」「知ったことをどう活用したい」の気持ちを持ち続けてほしいなと感じるところです。

3 年生には、ラストスパート、残りの高校生活をやり残したことがないくらい悔いなく、時間を過ごしてほしいと願います。そして1, 2年生の皆さんを含め、今日お話した、実際に経験することの大切さを胸に、まずは「行動におこさない」と何もはじまらない。「今」という時間は、かけがえのない時間であることも念頭に、日々を過ごしてほしいと思います。

穏やかな年始をむかえられますようお祈りし、また元気に令和 8 年をすごしていきましょう